

2695 Separations Module 分析前準備

アイドル状態の、または電源を切った2695の準備

- ・サマリー
- ・各操作手順

アイドル状態の、または電源を切った2695の準備手順 —サマリー—

- プランジャシール洗浄液(サスが白い樹脂製のチューブ)のレベルをチェックし、必要に応じて補充やエア抜きをする。

*ポンプヘッド部分(プランジャーシール)を外側から洗浄しているラインです。分析ラインとは独立しています。10%アルコール水溶液などをご使用下さい。

- ニードル洗浄液(緑のチューブ)のレベルをチェックし、必要に応じて補充やエア抜きをする。

*ニードルの内部は、分析中常に移動相が流れています。ニードル外側をこの溶媒で洗浄しますので、サンプルが良く溶解する溶媒を選択して下さい。

- デガッサを On にする。
- A,B,C,D 1つずつを7.5 ml/min. で0.2分間ウエットプライムを行う。
- 流速を0.000ml/min.にして、5分間デガッサチャンバーの溶媒を平衡化する。
- 使用する溶媒組成で 5.00ml/min. で 3分間ウエットプライムを行う。
- 最低10カラム容量分だけ平衡化を行う。

*3.0×150mmのカラムでは約1 mLのカラム容積になります。

- 最低6ループ容量分だけインジェクタをパージする。(注入再現性を求める場合は3回程度パージを実行し、最後にCompression Checkを実行してエラーが出ないことを確認。)

*カラムは接続しておきます

アイドル状態の、または電源を切った2695の準備手順 —各操作手順—

1. プランジャシール洗浄液(サスが白い樹脂製のチューブ)のレベルをチェックし、必要に応じて補充やエア抜き 又は 溶媒置換 をする。

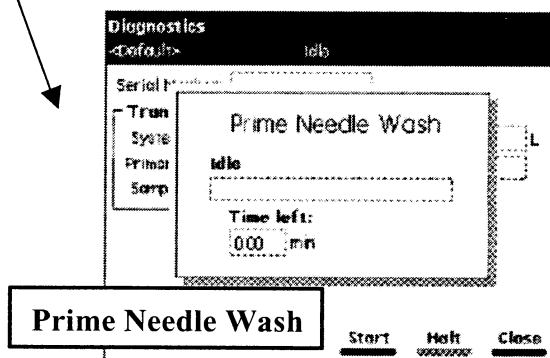
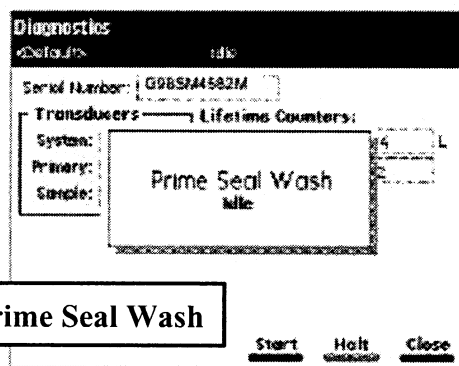
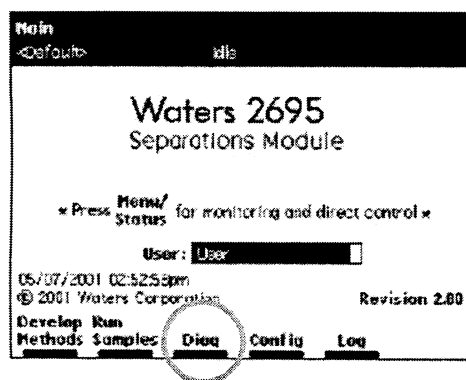
シール洗浄溶媒のエア抜き(溶媒置換)

- ①Main 画面から Diag に入る。
- ②PrimeSealWsh を選び Start をおす。
- ③廃液チューブから 洗浄溶媒が出てきたら Halt で停止する。
- ④Close で終了し、Exit で Main 画面に戻る。

2. ニードル洗浄液(緑のチューブ)のレベルをチェックし、必要に応じて補充やエア抜き 又は 溶媒置換 をする。

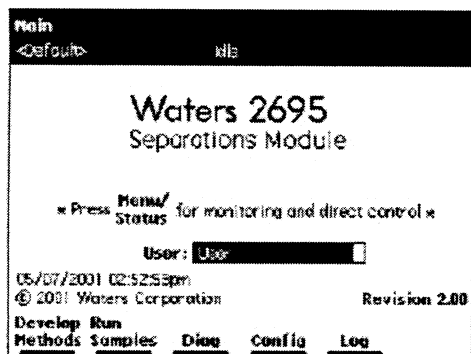
ニードル洗浄溶媒のエア抜き(溶媒置換)

- ①Main 画面から Diag に入る。
- ②PimeNdWsh を選び Start をおすと30秒洗浄が行われる。
- ③30秒以内に廃液チューブ(黄色のチューブ)から 洗浄溶媒が出なかったら StartAgain をおす。
- ④Close で終了し、Exit でMain画面に戻る。

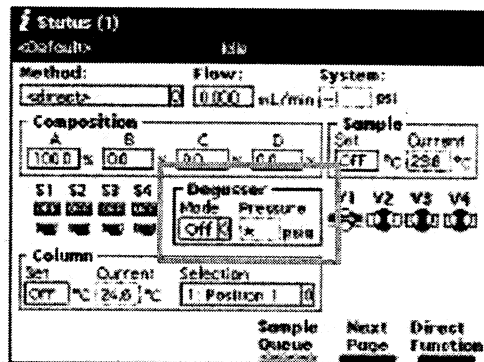


3. デガッサを On にする。

- ① Main画面から Status画面に入る。
- ② Degasser のところで Enter を押し、On を選ぶ。



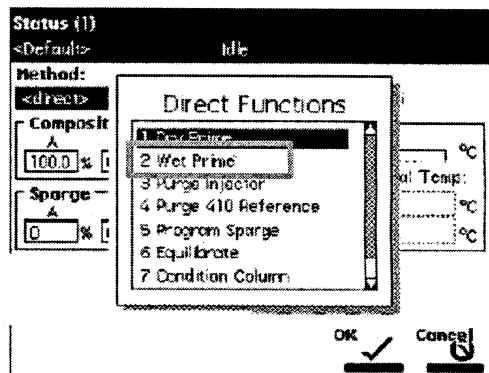
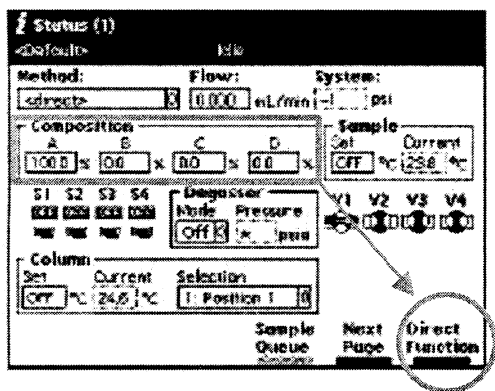
[Main]キーを押す



4. A,B,C,D 1つずつを 7.5 ml/min. で0.2分間ウエットプライムを行う。

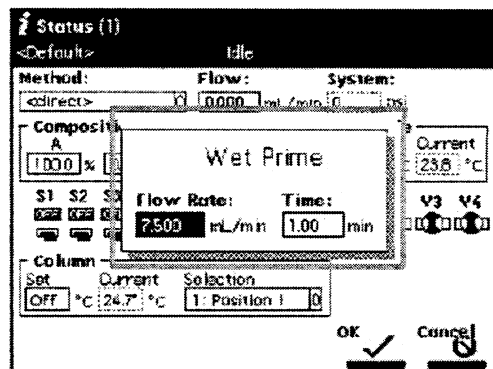
- ① Status画面でAを 100% にする。
- ② Direct Function をおし、WetPrimeを選ぶ。
- ③ 7.500ml/min., 0.2min.を入力し、OKする。
- ④ B,C,Dも同様に行う。

5. 流速を0.000ml/min.にして、5分間デガッ サチャンバーの溶媒を平衡化する。



6. 使用する 溶媒組成で 5.00ml/min. で 3分間ウエッ トプライムを行う。

- ① Status画面で使用する 溶媒組成を入力する。
- ② Direct Function をおし、WetPrimeを選ぶ。
- ③ 5.00ml/min., 3.0min.を入力し、OKする。



7. 測定する流速を設定し、最低10カラム容量分だけ平衡化を行う。

*3.0×150mmのカラムでは約1mLのカラム容積になります。

8. 最低6ループ容量分だけインジェクタをパージする。(注入再現性を求める場合はCompression Checkを実行)

①Direct Function をおし、PurgeInjector を選ぶ。

②Sample loop volumes 6.0 でOK する。

(③注入再現性を求める場合は3回程度繰り返し、最後の1回は Compression Check にチェックを入れてから、実行する。)

*カラムは接続しておきます

The figure consists of three screenshots of the instrument's control interface, connected by arrows to show the sequence of steps:

- First Screenshot:** The 'Status (1)' window is shown. The 'Direct Function' button is circled in red. A 'Direct Functions' dialog box is open, listing options: 1 Dry Purge, 2 Wet Purge, 3 Purge Injector, 4 Purge 410 Reference, 5 Program Spurge, 6 Equilibrate, and 7 Condition Column. Option 3 is highlighted.
- Second Screenshot:** The 'Purge Injector' dialog box is shown. The 'Sample loop volumes' field is set to 6.0. The 'Compression check?' checkbox is unchecked.
- Third Screenshot:** The 'Purge Injector' dialog box is shown. The 'Sample loop volumes' field is set to 6.0. The 'Compression check?' checkbox is now checked.

カーソルを移動し、[1]+[Enter]でOn。[0]+[Enter]でOffになります。